



第27図 湖南省寧郷県の温泉で飼育している湯鴨



第28図 湖北省英山県の地熱実験ステーション

観察して「硫を醸し 硝を養う」と書き留めている。

そのほか 中国には食塩泉が少なくない。この種の泉水から 人々の日常生活に必要な食塩を取ることができる。たとえば チベット自治区東南部の芒康県に塩井という名称の地があって 温泉が少なくない。その中でもっとも注目を浴びているのが瀾滄江の砂洲に湧出している温泉である。この温泉は第三系の岩塩層を通して湧出しているため 出てくる泉水が塩分に富んだ塩水そのものである。同地の人々は河畔に塔を建て その中に 100 ほどの木製の棚を作り 棚の表に紫赤色の粘土を塗り 泉口から温塩水を引き入れ 温泉熱を利用しながら蒸発させ 凝縮させて 塩の結晶を得ている。“塩井”の地名は この塩の採取に由来する。この地から産出した塩は 四川省 雲南省 チベット自治区などで売られている。

温泉からは鉍物質が抽出され あるいは採掘されるだけでなく 有用なガス成分も採取される。

ヘリウムは無色・無味で 水素に次いで軽い気体であり 液化する温度がきわめて低く 人工衛星などの宇宙空間技術と先端産業に用いられる。中国の温泉ではヘリウムガスを含有したものが少なくなく 幾つかの温泉では含有率がかなり高く 分離・採取する価値があるとのことであるが 現況と詳細はまだ公表されたことがない。

次に弗素であるが 弗素は重要な工業原料で ロケット 誘導ミサイル 人工衛星の燃料の製造になくてはならない物質である。中国の温泉の中には 弗素の含有率が非常に高いものがある すでに中国では弗素を採取する貴重な資源の一つとなっている。

(文責：岸本文男・元所員)

(つづく：次編完結)

最近中国で発見された新鉍床

岸本文男(元所員)

Fumio KISHIMOTO

四平市で大型銀鉍床を発見

吉林省地質鉍産局第三地質調査所は 2 年間の地質調査と鉍床探査を経て 梨樹県と四平市にまたがる 延長 8 km の大型銀鉍床を発見した。現在すでに延長 1,650 m 厚さ 8 m の可採鉍画が把握済みである。含銀品位は 189 g/t で 鉍量は大型のカテゴリーに入る。鉍体の深部では 銀のほかに金が随伴している。

樊富庄 秦萍(中国地質報 1987. 6. 19)

貴州省での超大型重晶石鉍床の探査が成功

貴州省地質鉍産局の第 103 地質大隊は同省天柱県の大河辺郷の重晶石鉍床に対する精査を行い カテゴリー D の重晶石鉍量を 10,881 万 t と算定した。当該鉍石は品位が高く BaSO₄ 含有率が 92.7% 以上で 一級と二級の鉍石の鉍量が 5,100 万 t となっている。この鉍床は現在のところ中国最大の重晶石鉍床で 上記鉍量は 1985 年末の時点における中国全体の重晶石鉍量の 60% を占めている。

夏建鈞(中国地質報 1987. 3. 2)

理解度が大きく落ちてしまった。様々なお国訛の英語を聞き取るには苦勞した。

発表・討議ではオーストラリア勢の威勢の良さが目立った。日本勢の研究水準も向上してきたとの評価もあったが まだまだ世界をリードする力は不足しているようだ。今後世界のひのき舞台で頭角をあらわすために

は 後追的な仕事は切り捨てて新しいことに積極的に取り組む必要があることを痛感した。

最後に 写真を快く提供して頂いた大阪市大の弘原海清教授と本稿執筆に関して御援助頂いた地質調査所の角井朝昭氏に深謝する。

最近中国で発見された新鉱床

岸本 文男 (元所員)

Fumio KISHIMOTO

小秦嶺でまた新金鉱床

武装警察黄金指揮部第14支隊は秦嶺の南斜面 陝西省洛南県寺耳の地内の東部で1年間の試錐などによる探査を経て この度 3条の平行する石英脈型金鉱床を発見した。その鉱床の延長は最大およそ1,000m 前後で そのうちの1条の鉱脈についてはすでに鉱画が明らかになり 残る2条については現在精査が進められている最中である。調査の程度が比較的高い1条はカテゴリーDの鉱量計算が済み その延長は700m 幅は0.4-2.6m 平均1mである。化学分析の結果によると 最高品位はAu 54.93 g/t 平均15 g/t 前後である。主な随伴元素である銀の含有率は比較的高く 最高100 g/t に達している。 鏐帆 文剣 (中国地質報 1987. 6. 19)

福建省近海海域で有望石油-ガス田

最近 福建省地質産産局の第8地質大隊が提出した“台湾海峡の石油地質と調査-探査状況の調査研究報告”が審査を通過した。この報告は台湾海峡の石油地質状態に対する総合的な評価を行ったもので 台湾海峡西部に属する福建省近海海域での石油-ガス田の探査がきわめて有望なことを明らかにした報告である。

この報告によると 台湾海峡は燕山運動以後における台湾中央山脈地向斜の烈しい褶曲隆起と福建-南嶺地塊の烈しい上昇によって生じた新しい 中生代後期-新生代の激しい沈降の結果の生成体で その南側に“北港-澎湖構造”があり この構造は長期にわたってパリアーの作用をし豊富な母油物質の集中を助け そして当該沈降盆地の堆積層は層厚が3,000-6,000m ないしそれ以上になっている。その他 広く分布する白堊紀の海成

相 海陸交互相の堆積層は石油の発生をもたらした物質的基礎である。石油の貯留の面では 海峡の東部ですでに8石油-ガス田が発見されており 中-西部は陸棚斜面帯に位置し 堆積盆地が狭く 点々と分散して分布しているが 早期の断層陥没基盤岩層上に形成され いずれも二つの突起状隆起体の間に挟まれているため 第三期前期と中生代中期に 福建省陸地部分と東支那海から大量の堆積物がもたらされて堆積層の層厚が3,500-6,000m に達し 同時に当該区域は第三紀後期には陸源堆積区に接近し 鮮新生-更新世には福建側と台湾側の両方から 陸源堆積物が供給され 比較的良好な三角洲相 海浜-浅海相の堆積層が成長して石油・天然ガスの貯留条件がさらに整っている。本報告はさらに福建省沿岸地帯の仏具層群がこの海域のとくに九龍江堆積盆地に分布し 沿海島嶼にはいずれもジュラ系上部統南園累層の火山岩 堆積岩を挟有した火砕岩が発達して いずれも海域の一定範囲まで伸び 台湾海峡西部のジュラ系上部統には石油が胚胎されている可能性があることを説明している。

この報告は 福建省の関係部門が台湾海峡に石油・天然ガス探査事業を配置し 外国商社などと共同調査-探査を協議する際の貴重な資料になるだけでなく 福建・浙江・広東3省の陸地と台湾島弧の地質構造の関係を研究するための基礎資料を提供し 台湾海峡の地質上の空白を埋めるものである。専門家たちは この報告が今までになかった台湾海峡の石油地質分野のもっとも整った総合的研究報告で 重要な理論上の意義および実際上の意義がある と理解している。

謝承元 (中国地質報 1988. 11. 14)